

特集 地域振興計画

熱い 想いは 実現する。

いま私たちのまちづくりが

注目を集めています。

それは皆さんと一緒に進めている

「地域振興計画」と呼ばれるもの。

様々な地域から視察が訪れ、

国や大学なども関心を示しています。

その理由は

「自分たちの地区はこうありたい」

という想いが少しずつ

実現しているからです。

新年号は、そんな進化し続ける、

各地区の取組をご紹介します。

最新 実現事例



←平成26年11月27日に完成した「新城地区交流拠点施設（グラウンドゴルフ場）」を記念して、平成26年12月14日に開催されたグラウンドゴルフ大会の様子。



「地域の想い」を地域と行政がともに知恵を絞り出し実現する。

新年最初の特集は、「地域振興計画」をお届けします。この計画は、その名が示すとおり、地域を盛り上げ、より住み良い地域を作っていくためのものです。平成21年度から大野地区をかかわりに、各地区と行政がともに知恵を出し合い、進めています。計画は、皆さんが「自分の地区はこうありたい」と願う姿を実現するために、「だれが、いつ、何をやる」のかを「行動計画」としてまとめていきます。計画期間は10年間で、その計画実現を支えている財源として、「ふるさと納税」や国の交付金などを活用しています。これまで、市内9地区のうち8地区で計画が策定され、イベントの開催から、グラウンドゴルフ場の開設まで、幅広い活動が展開されています。

では早速、各地区における取組を見ていきたいと思います。

力を合わせ、行動を起こそう

水之上は、大野に次ぐ2例目の地域振興計画です。住みよい水之上を目指して、「行動を起こす」ことをテーマにしています。例えば、「一品持ち寄り方式」で食べながら、楽しく語り合う「生活笑楽校しょうがっこう（参照：8ページ）」や、垂水千本イチョウの手入れ作業などを行っています。また、農業者が自ら受託作業を行う「三和営農組合」による菜の花を生かした景観づくり「菜の花ロード」も推進しています。

実現例 1



第1回水之上生活笑楽校

実現例 2



菜の花ロード

地域のありたい姿（目標）

力を合わせ、
行動を起こそう
住みよい水之上を目指して



02

No.

水之上 MIZUNOUE

地区名 / Name.

三和づくり計画 住みよい水之上を目指して

計画書 / Plan.

© 18.1MB



計画書 PDF / QR.

24年3月

策定年 / Planing.

24年度
〜
33年度

計画期間 / Period.

地域振興計画のモデルケース

大野は、最初の地域振興計画（モデルケース）として作られました。地域・行政ともに初めての取組であったため、すべてがゼロからのスタート。鹿児島大学講座への参加や、水俣市への視察、夜7時からの話し合いなどを14回重ね、2年7カ月という歳月を費やし、出来上がりました。計画書に記載されたのは、地域から出された102の意見を集約した、9つのありたい姿と、そのための28の行動です。

実現例 1



大野原いきいき祭りの大成功を祝って！

実現例 2



つらさげ芋干し場

計画書 / Plan.

© 10.23MB



計画書 PDF / QR.

23年3月

策定年 / Planing.

23年度
〜
32年度

計画期間 / Period.

地域のありたい姿（目標）

わたしたちは
大野の人をふやしたい
（住む人・来る人）



完成！グラウンドゴルフ場！！

新城は、絆や伝統、自然を大切にしたいという想いと、その勢いが加速しています。24年度から約3年、地区が熱望したグラウンドゴルフ場と交流拠点施設等が完成しました。完成には、住民ボランティア（延べ600人）の参加もあり、野外活動の拠点として健康づくりや憩いの場として活用されています。また人気の直売所「おたけどの郷」も、売り場環境の改善等、さらなる工夫が加えられています。

実現例1



交流拠点施設の上棟式

実現例2



おたけどの郷(26年度事業で日よけを新設)

地域のありたい姿(目標)

人情、豊かな自然
と歴史に抱かれた
住みよい郷をめざして



04

No.

新城 SHINJYO

地区名/Name.

新城づくり計画 想いが加速する郷

計画書/Plan.

◎ 3 MB



計画書 PDF / QR.

24年10月

策定年/Planing.

24年度
く
33年度

計画期間/Period.

特色ある牛根各地域の結びつき

牛根地区は広く、各地域に多様な特色があります。しかし、牛根中学校の廃校や過疎化等により、地域のつながりが薄れることが心配されていました。そのため、牛根地区全体で交流を増やしたいという思いが計画に表れ、これまで一部で行なわれていたもちつき大会も、合同で開催されるようになりました。他にも、安心して住み続けられるよう岳野自治公民館の防災機能強化も実施されています。

実現例1



ふれあいもちつき大会

実現例2



改修された岳野自治公民館(落成式の様子)

計画書/Plan.

◎ 2.62 MB



計画書 PDF / QR.

24年10月

策定年/Planing.

24年度
く
33年度

計画期間/Period.

地域のありたい姿(目標)

牛根でしかできないこと
牛根だからできることを
みんなで考えよう



人・浜・道を大切にしたい

拡幅工事が完了し、地区の中心を走る国道 220 号。そんな国道をいつも花が咲き誇るきれいな場所としてアピールしたいという想いが地区にはあります。その想いを形にするため、国と協定を結び、花だん整備を各振興会が責任をもって行っています。また、「刃物砥ぎ」や「網戸の張り替え」サービスも好評で、できる人が助けるといった柗原の人々のやさしい気持ちを表す活動も展開されています。

実現例 1



国道 220 号沿いの花だん整備

実現例 2



刃物砥ぎサービス

地域のありたい姿（目標）

ひと・はま・みち
元気あふれる
くめっばい



06

No.

柗原 KUNUGIBARU

地区名 / Name.

柗原づくり計画 助け合いの精神と絆の強さ

計画書 / Plan.

© 6.1MB



計画書 PDF / QR.

25 年 11 月

策定年 / Planing.

25 年度
く
34 年度

計画期間 / Period.

魅力ある資源を地区内外に発信

No.

松ヶ崎 MATSUGASAKI

地区名 / Name.

松ヶ崎づくり計画 恵まれた歴史と景観を広めたい

松ヶ崎には、錦江湾と桜島を間近に臨む景観と、宇喜多秀家公の潜居や安徳天皇の伝説が伝えられる歴史があります。こうした魅力ある資源を、年間 80 万人以上の観光客が訪れる道の駅たるみずと協力し、多くの方に発信する計画などが進められています。鉄道跡地を美しいサイクリングロードとして活用する観光振興、郷土の文化を次の世代に継承する取組などが実行されています。

実現例 1



道の駅産業祭における郷土料理のふるまい

実現例 2



ボランティアによる花植え

計画書 / Plan.

© 5.81MB



計画書 PDF / QR.

25 年 10 月

策定年 / Planing.

25 年度
く
34 年度

計画期間 / Period.

地域のありたい姿（目標）

歴史と景観に恵まれた
松ヶ崎を、道の駅を
生かして広めたい



明るく活力のある協和

協和は境同様、今年度計画を策定したばかりです。12月16日に開催した報告会（鹿児島大学公開講座）では、協和にあるもの（農・漁・温泉等）をコラボレーション（組み合わせる）することによって、新たな魅力の創造や計画実行につなげていくこと、また若者との対話が重要であることが確認されました。計画実行の中心を担う新組織も結成され、協和の良さをさらに引き出す取組が今始まります。

策定
経過



協和づくり計画策定委員会

行動
予定



相撲大会／伝統を継承し好きな協和を大事にしたい（地区の伝統を守っていく！）

地域のありたい姿（目標）

桜島・カンパチ・温泉
の町 みんなでつくる
う明るく活力ある協和



08

No.

協和 KYOUWA

地区名／Name.

協和づくり計画 桜島・カンパチ・温泉の町

計画書／Plan.

◎ 7.76MB



計画書 PDF／QR.

26年11月

策定年／Planing.

26年度
と
35年度

計画期間／Period.

海と桜、人がつながる境浜づくり

さけはま

今年度計画が策定された境地区は、現在でも漁業関係者が大半を占める海のまちです。地区住民が桜を植樹した鉄道記念公園もあり、春になれば満開の桜が咲き誇っています。境づくり計画では海や桜などを活用した取組などが提案され、青空市の開催や食をとおし、ふれあいの場づくり、子どもたちに魚の捌き方を伝える教室など、人々のにぎやかな交流が計画に盛り込まれています。

策定
経過



境づくり計画策定委員会

行動
予定



二月祭りの棒踊り／魅力あふれる境を盛り上げる！（棒踊り等を子どもたちに継承する！）

地域のありたい姿（目標）

熱く語れ
大きく動け
人がふれあう 境浜魂

さけはま

境浜魂

07

No.

境 SAKAI

地区名／Name.

境づくり計画 熱く語れ 大きく動け

計画書／Plan.

◎ 3.32MB



計画書 PDF／QR.

26年11月

策定年／Planing.

26年度
と
35年度

計画期間／Period.

小栗先生、地域振興計画をどのように捉とらえていますか？



鹿児島大学
生涯学習
教育研究センター
准教授
小栗 有子

新しいまちづくりの形は
垂水のこれしかないと
思っています。



Profile / おぐりゆうこ

千葉県出身 / 2003年11月から鹿児島大学の生涯学習教育研究センターに助教として就任、2005年より准教授 / 社会教育学、環境教育学、地域教育論を専門とし、鹿児島大学に赴任以来、大学と地域を結びつける教育研究や国内外の地域づくりに関する調査研究に従事。

地域振興計画の必要性

「一人ひとりの思いを形にするという思想が『地区公民館が中心となった地域づくり』の根幹にはあり、垂水市が進めている地域振興計画は必要だと思えます。ただ、『計画をどう作っていくのか』『市の施策にいか位置づけていくのか』が難しい取組です。垂水市の地域振興計画の発想は、平成18年から私も携わった総合計画の策定プロセスで生まれました。市民と市職員が公開講座などを経て、手作りで作り上げていく中で、「もっと生活に身近な計画も必要である」という考え方が生まれ、それが総合計画に盛り込まれることになり、現在にいたっています。」

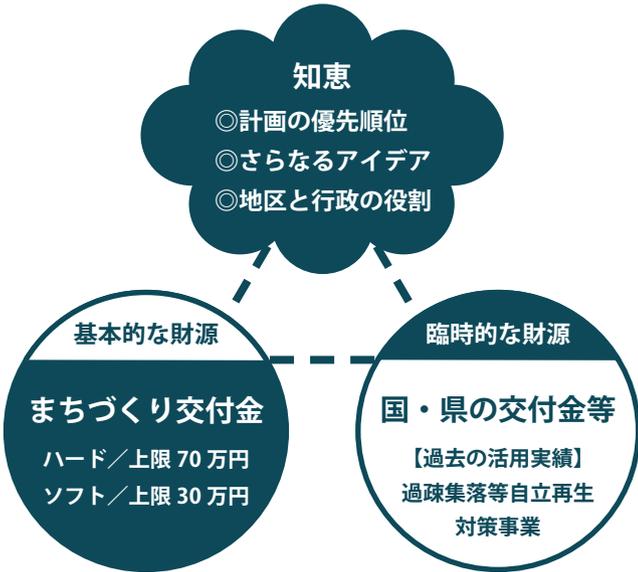
様々なことが実現している現状をどう見ますか？

「計画づくりの初期の頃は、その目的を実現するための財

源がまだ明確ではなかったと思います。そのことが、実は大事だったと思えます。人はどうしても安易にお金に頼ると、仲間と知恵を出しあったり、自ら汗をかくことを忘れてしまいます。しかし、話し合いをどれだけ重ね、知恵を出し合ったかによって計画への愛着は変わってきます。手弁当でやってきたところにお金がつくことで、初めてうまくいくのだと思います。各地域の特性を生かした地域の治め方や、地域と行政の新しい関わり方も作られつつあります。やはり地域振興計画は大事だと思えます。地域の方々が喧々諤々けんけんがくがくと話し合ったことが文章化されていることには大きな意味があります。10年後、今の中学生が大人になった時、皆さんの思いが一つでも実現していれば、大きな励みになるはずです。計画づくりは地域づくりの始まりです。これからも皆さんのまちづくりに注目しています。」

計画の作り方と実現可能とする知恵と財源

計画実現を支える知恵と財源



計画実現は、ふるさと納税を財源とした「まちづくり交付金」を活用しています。また国・県の事業に応じて、計画に基づく申請を行い、採択された場合には、各交付金等が活用できる可能性があります。

【国事業実績】24年度～26年度/過疎集落等自立再生（緊急）対策事業により5地区（大野・松ヶ崎・牛根・水之上・新城/合計5,300万円）が採択されました。この採択件数は、全国トップタイです！



Profile / 左：西川了助、右：永山貴丸 / 垂水市企画課地域政策係 / 地域振興計画の担当職員

附者の想いも込められています。今進めている地域振興計画は、そんな様々な想いが幾重にも折り重なってできた大切なものです。地区の皆さんと、行政がともに知恵とアイデアを絞り出し、取り組んだとき、更なる発展が私たちを待っているのではないのでしょうか。

計画策定までの主な流れ



①まず地区の皆さんに、計画の必要性等をご理解いただくことからスタートします。（地区公民館長への説明や意見交換会を開催）

②話し合いの場となる「策定委員会」を地区公民館を中心に組織し、話し合いを重ねます。地域の「こうりたい」という姿と、具体的なアイデアを出し合っていきます。また必要に応じて、地域でアンケート調査等を実施します。

※この過程には、大きな労力と時間が必要となります。地区と行政がどれだけ「地域を想う気持ちがあるか」、その真価が問われる部分と言えます。

③④話し合いの結果を文章化し、計画書としてまとめ、少しずつ計画実現を進めていきます。

持続可能な地域づくりへ

各地区で異なる地域振興計画。しかし目指す本質は、「魅力的」かつ「持続可能な」まちづくりではないでしょうか。計画期間である10年は、今の中学生が成人を迎え、若い世代が大人へと成長するときです。その時に、胸を張って地区とこの計画を、次の世代に引き継げるように、少しずつでも着実な努力の積み重ねが今、求められています。

また、限られた財源として活用している「ふるさと納税」には、「垂水のために使ってください」という寄

中馬主事の体験レポート〔抜粋版〕

三和づくり計画 生活笑楽校の はじまり。

私の体験
をお話し
ます！



Profile / 中馬 英機
水之上地区公民館主事

平成24年度は計画の実施1年目として、とりあえず幾つかを取り組むことにしましたが、なかなか取り掛かれず、年末を迎えてしまいました。

そうした中で、水俣市在住で地域おこし等の実績をあげておられる吉本哲郎先生に相談することになりました。

暮も押し迫った平成24年12月25日、鹿児島中央駅付近で会うことになり、館長と私と企画課の西川さんの3人で出

かけました。

私たちは、①農産物の無人販売所を集約して共同販売所をつくりたい。②文化財・観光マップづくりを進めたい。の2点をどのように進めたら良いかを相談しました。

そしたら、先生からいろいろときつい質問があり、予想外の展開になり、しどろもどろになりながら精一杯答えました。何故、地域づくりを始めるのか、本当に地域を盛り上げたい気持ちがあるのか、真剣に焦点を絞って取り組もうとしているかを試されたのだと後で考え気付きました。やり取りする中で昼になり、昼食を食べて、結論が出ていなかったの、再度午前中に居た喫茶店にもどり、コーヒを何杯も飲みながら最後に出てきた答えが、「皆が盛り上がるのは、飲みながら語り合うことだ」という事になり、食

べ物・飲み物を自分で持ち寄って『飲みながら、食べながら語り合う会』をすればというのが長い長い話し合いの末に出された結論でした。話し合いかから開放された気持ち、果して水之上でそのような会が成立するのかどうか、疑心暗鬼な気持ちで帰ってきました。一番心配なのは、果して何人が会場に来られるのか、料理が集まるのかとても心配ではありませんでした。

そして、当日10時を過ぎる頃から人が少しずつ会場に来られるようになりました。それぞれ、料理の入れ物を工夫して来られています。時間が経過するにつれ、女性の方々が思っていた以上に参加して下さることにびっくりしました。そして、水之上校区内ばかりでなく、中央地区の方も来て下さりとてもうれしく思いました。料理もほとんどダ

ぶることなく色々な料理が並び、皆さん喜んで食べておられました。「次回はいつ頃の予定ですか」というところまでありました。私は初めての会が、想像以上の参加があったこと、沢山の料理が集まったこと、会が大変盛り上がったことに感極まり、涙が出そうで声がつまりました。

現在、地区公民館では「地域づくり計画」の推進と同じように、振興連による「草払いボランティア」などを実施し、少しでも住みやすい地区にしようとして頑張っています。少しずつ、確実に変わります。少しずつ、これが三和づくりにつながり、校区住民が「住みよい水之上」を実感できるように、できる人ができることを取り組み、校区の皆さんの理解を広め、思いを活動に結び付けていきたいと思えます。